



熱心に耳を傾ける参加者

「トライアル輸出セミナーin 帯広」を開催。海外への販路開拓を支援する株式会社RCG（東京都）代表取締役の天間幸生氏が「北海道農産物の可能性」をテーマに講演しました。

同氏は「タイは大型ショッピングモールが立地するなど個人消費の増加が見られ、輸出の大きな可能性がある」と見解を示し、「北海道農産物の品質の高さを武器にした販売戦略を展開することが重要だ」と参加者に語りかけました。

8月26日、於：帯広市（オンライン）、参加者：農業関係3社・団体など12人

帯広支店

大きな可能性を秘めた
タイ国市場を学ぶ



オンラインでの開催は初の試み

協議会は、熊本県八代地域の普及指導協力委員と農業経営同友会で組織されています。

総会で、当支店融資第二課長が、八代地域の主要産物であるトマトについて、生産・価格・販売の全国的な動向、経営改善へ向けた特徴的な取り組みを紹介、公庫が実施したトマトの施設規模と収益性に関する調査結果について説明しました。

また、参加者からコロナ禍の反攻勢に向けた取り組み事例が紹介されました。

6月18日、於：熊本市（オンライン）、参加者：会場4人、オンライン8人

熊本支店

八代地域農業経営者協議会で
主要作物の情勢など講演



会員専用インターネットサービス

『日本公庫ダイレクト』が始まりました

日本公庫の会員専用インターネットサービス『日本公庫ダイレクト』が9月27日に稼働しました。

農林水産事業の主なサービスは、現在のところ、「融資に関するお問い合わせの受け付け」と「セミナーの開催案内や、技術・経営に関するお役立ち情報のご提供」になります。

さらに便利なサービスを来年（2022年12月）より提供予定です。具体的には、「お取引状況の照会」「残高証明書や償還予定表のオンライン発行」「オンラインでの資料受け渡し」ができるようになります。

『日本公庫ダイレクト』の会員登録をご検討ください。

ご登録は
こちらから



ご意見・ご感想をお寄せください

AFCフォーラムは農林漁業者、食品事業者の皆さまに役立つ誌面づくりをめざしています。参考になった記事、取り上げてほしい企画、お気付きの点など、メール、FAX、電話、郵送により編集部までお寄せください。掲載させていただいた方には薄謝を進呈します。

メール anjoho@jfc.go.jp

※こちらのコードも
お使いください →



FAX 03-3270-2350

電話 03-3270-2268

郵送 〒100-0004

東京都千代田区大手町1-9-4

日本公庫農林水産事業本部情報企画部

AFCフォーラム編集部あて

◆8月号に掲載された作家の荻野アンナさんの「フォーラムエッセイ」なかでも心に刺さったのは最後の「平和はいちばんのこちそうだと思ふ」という一文でした。

戦争で日本の食糧事情は困窮し、苦労は並大抵のものではなかったと思います。また、ご飯をお腹いっぱい食べられる満足感で、心も体も十二分に満たされたことと思います。まさに、平和はいちばんのこちそうであり、こちそうにより平和が実現されたということでしょう。

今、戦争の時代を経てつかんだ「平和」は、二度と離してはならないものであると強く感じました。

これからも「農や食」にまつわるエッセイの連載を楽しみにしています。

(福岡県岡垣町 岸本 純子)

◆高森町役場で農政を担当しております。『AFCフォーラム』は、情報収集ツールとして毎号興味を持って楽しく拝読しています。

8月号「最前線・農産物流通DX」で懐かしい人の名前を見つけた。特集記事を書かれている農林水産省の信夫隆生審議官です。

信夫審議官は入省時、高森町の農家で1カ月間、農業研修を受けられました。研修地は阿蘇の外輪山の外側にあたり、風光明媚な景色に感動される姿や、地元の農家の方々と積極的に交流をされている姿が昨日のことのように思い出されます。

今回、記事を拝読し、農業の最前線でご活躍のご様子に、町の農業振興に携わる人間として、改めて農業振興への思いを強くしました。

(熊本県高森町 後藤 一寛)

AFCフォーラム 合併号 2021.10・11

編集

前田 美幸 平野 伸介 高雄 和彦
山本 晶子 大谷 香織 城間 綾子
竹中 夕美

編集協力

青木 宏高 村田 泰夫

発行

株式会社日本政策金融公庫
農林水産事業本部

〒100-0004

東京都千代田区大手町1-9-4

大手町フィナンシャルシティ ノースタワー

Tel. 03(3270)2268

Fax. 03(3270)2350

E-mail anjoho@jfc.go.jp

ホームページ <https://www.jfc.go.jp/>

印刷 株式会社佐伯コミュニケーションズ

販売

株式会社日本食糧新聞社

〒104-0032

東京都中央区八丁堀2-14-4 ヤブ原ビル

Tel. 03(3537)1311

Fax. 03(3537)1071

ホームページ

<http://info.nissyoku.co.jp/koudoku/>

お問い合わせフォーム

http://info.nissyoku.co.jp/modules/form_mail/

定価 523円(税込)

編集後記

◆今号は本誌全体で北海道の農漁業を紹介しています。特集記事だけでなく、巻頭言、経営・事例紹介、アドバイザーまで北海道にちなんだものとなりました。最先端のスマート技術、地域に若い人を呼ぶユニーク経営、生産者を支える食品産業、関係機関である北海道庁や民間金融機関の取り組みを紹介しています。読者の皆さまに北海道の「いま」を感じていただけたら幸いです。(平野)

◆「スマート農業」普及に伴い、個人的に期待しているのが「夜間」の有効活用。特集で言及されている完全無人トラクターなどが実用化すれば、「夜間」の活用により露地の耕種農家の方などは「時間」の概念が変わるほどのインパクトがあると思っています。労働環境改善・持続可能な農業実現にも通ずる取り組みの早期普及を願っています。(高雄)

◆わが国の食料供給地域である北海道を特集することについて、編集部では長年、構想を温めてきました。一地域を深掘りしたことは初めての試みでしたが、「新・農業者」の江面さんや「地域再生への助走」の小笠原さんはじめ、農業者の皆さんの豊かな個性や地域への熱い想いを知り、日本の農林漁業の未来は明るいと感じました次第です。(城間)

◆今号の「新・農業者」はリモート取材でした。コロナ禍でオンライン会議ツールが急速に普及し、離れた場所にいる方との面談も気軽にできる世の中になった反面、場の雰囲気や五感での体験も執筆するうえで重要な要素だったことを再確認しました。画面越しでも伝わってきたえづらファームの温かさ、懐の深さを感じていただけると嬉しいです。(大谷)

◆わが国の食料供給地域である北海道を特集することについて、編集部では長年、構想を温めてきました。一地域を深掘りしたことは初めての試みでしたが、「新・農業者」の江面さんや「地域再生への助走」の小笠原さんはじめ、農業者の皆さんの豊かな個性や地域への熱い想いを知り、日本の農林漁業の未来は明るいと感じました次第です。(城間)